

## JLAC10 採番ガイド (案)

2013/03/04

JLAC10 の正確な採番を行い、コードの統一性を保つために作成した。

(JLAC10 適用細則と併せて活用する。)

### 1. 分析物コード (資料1: 分析物セットコードと個別コードの対応表)

下記に示す分析物セットコードでは、個別コードにも同じ検査項目が存在するために使用することで、コードが重複することがあります。

1A9900000001920	尿一般物質定性半定量検査
1A9910000001920	先天性代謝異常症スクリーニング
1A9920000001920	ポルフィリン症スクリーニング
1C9900000041920	髄液一般検査
1Z9900000051920	胃液・十二指腸液一般検査
1Z9920000051920	精液一般検査
2A9900000019920	末梢血液一般検査

#### 使い方の指針

自動分析装置などで通常検査を行う場合は、上記セットコードを使用し、個別コードは、単項目のみの検査を行う場合に使用すること。

### 2. 識別コード

検体識別コード (1301~1320) およびリンパ球サブセットの CD 分類関連コード (3001~5921) については、使用することでコードが重複化する可能性が高いため、極力使用をさけること。使用する場合は、同一施設内のみとし、地域連携など外部との連携には使用しないこと。

\* 検体識別コードは、同一項目を一度に複数オーダする場合の使用を目的として作成された。

\* CD 分類関連コードは、リンパ球サブセットの CD 分類に使用した抗体名を判別するために作成された。

### 3. 材料コード、(資料5: 材料コード 共用化サブWG 資料より)

#### 尿および血液について

特別な場合を除き、尿は尿(含むその他の尿)(001)および蓄尿(004)に分類し、血液は全血(018)、血漿(022)および血清(023)に分類すること。

糖負荷試験の材料には、血糖は血漿(022)、測定法により全血(添加物入り)(019)、

尿糖は尿(含むその他の尿)(001)を使用することが望ましい。

全血(添加物入り)(019)については、抗凝固剤、抗血小板剤等の添加物により検査材料

の安定化を必要とし、全血で行う検査に適用する。

使用例：血球数算定検査や血液ガス分析検査などに使用する。

#### **4. 測定法コード（資料3：頻用生化学項目における測定法コードの対応）**

測定法コード可視吸光光度法（271）、紫外吸光光度法（UV法）（272）においては、現状では多くの測定方法が当てはまる。これにより採番の誤りが多く発生している。

使用頻度の多い生化学検査項目について、検査項目ごとに測定方法の対応表を作成しので参考とすること。この表に掲載されていない測定法に関しては、JLAC10（\*\*\*\*j|ac4 ファイル）で確認すること。